

# 東南アジアの自然と農業研究会

## 第74回研究会ご案内

陽春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

定例の研究会を開催いたしますのでご案内申し上げます。今回は、京都大学農学部国際林業論研究室の葉山アツコさんに報告していただきます。皆様のご多人数のご参会を心よりお待ちしております。

### 記

日 時 : 5月 24日(金) 午後4時~午後6時  
会 場 : 東南アジア研究センター 東棟2階第一教室  
京都市左京区下阿達町46 川端通り荒神橋東詰め  
話題提供者 : 葉山 アツコ さん  
話 題 : フィリピン山地農民の土地利用と森林再生  
- ミンダナオ島の移住民とミンドロ島の伝統的焼畑農耕民の事例 -

### (要旨)

フィリピンの森林面積は国土面積の20%以下にまで減少しており、森林再生は同国の森林政策上の最重要課題になっている。森林再生の場は国有林地であるが、同時にそこは農業を生業とする農民の生活の場でもある。フィリピンの全人口の15%に相当する約850万人が国有林地内に居住し、うち先住民が600万人、低地からの移住民が250万人と推定されている。国有林地内の農民の主な生業は焼畑であり、森林資源の消失あるいは減少の直接の原因であると考えられてきた。かつて規制や排除の対象であった国有林地内の農民は、現在は、森林再生の担い手として政策的に取り込まれている。しかしながら、国による森林再生政策は画一的におこなわれているものの、国有林地内の農民の土地利用は一様ではない。本報告では、商業伐採跡地に形成されたミンダナオ島の開拓村と伝統的な焼畑を営んでいたミンドロ島の先住民の集落を事例にして、彼らの土地利用形態と国の森林再生政策に対する彼らの行動を分析する。

問い合わせ先：京都大学農学部熱帯農学専攻

柳沢 雅之(Tel 075-753-6374)

京都大学東南アジア研究センター

田中 耕司(Tel 075-753-7307)